

技光る“用の美”

会 期:2021年4月10日(土)~6月13日(日)

休館日:月曜日(4月26日、5月3日、6月7日は開館)

作者名	作品名	制作年	技法
佐々木 象堂	金銅海鷲香炉	1935年頃	蠟型鑄造
三浦 小平二	青磁飾り壺「トルコにて 旋舞」	1987年頃	青磁
玉川 宣夫	木目金花瓶	2007年	鍛金
伊藤 赤水	無名異窯変壺	1981年	陶器
伊藤 赤水	無名異練上花紋皿	不詳	陶器
亀倉 蒲舟	塔(薬師寺)	1989年	彫金
亀倉 蒲舟	供養頌	1987年	彫金
原 益夫	エンドレス	2004年	鑄造、鍍銀

作家略歴

◆佐々木 象堂(ささき・しょうどう)

- 1882年 新潟県佐渡郡佐和田町(現・佐渡市)に生まれる。
- 1901年 佐渡郡佐和根町の鑄金家、初代宮田藍堂に入門。
- 1913年 東京の鑄金家、大島如雲に入門。
- 1927年 第8回帝展にて特選。以降、審査員、参与を務める。
- 1938年 新潟市に越路焼窯新潟陶苑を起す。
- 1947年 真野町に真野山焼窯を創設し、子弟の養成に尽力。
- 1960年 重要無形文化財保持者「蠟型鑄造」(人間国宝)に認定される。
- 1961年 逝去。

◆三浦 小平二(みうら・こへいじ)

- 1933年 新潟県佐渡郡相川(現・佐渡市)に、無名異焼窯元、三浦小平の長男として生まれる。
- 1951年 東京藝術大学美術学部彫刻科に入学。平櫛田中に学ぶ。陶磁器研究会を作り、加藤土師萌に師事する。
- 1966年 第13回日本伝統工芸展に初入選。
- 1969年 中近東、アフリカに旅行。以後、アジア各国を旅する。
- 1973年 父小平の没後、佐渡小平窯を継ぐ。
- 1990年 東京藝術大学教授に就任。
- 1997年 重要無形文化財保持者「青磁」(人間国宝)に認定される。
- 2006年 逝去。

◆玉川 宣夫(たまがわ・のりお)

- 1942年 新潟県下田村(現・三条市)に生まれる。
- 1959年 玉川堂へ入社、金工(鍛金)の技を覚える。
- 1963年 上京、関谷四郎(鍛金、人間国宝)の内弟子となる。
- 1965年 帰郷、玉川堂に再入社。
- 1969年 第9回日本伝統工芸新作展初入選。第16回日本伝統工芸展初入選。
- 1996年 玉川堂を退社し、創作活動に専念する。
- 2002年 正倉院宝物《銀薫炉》復元(鍛金)。紫綬褒章受賞。
- 2010年 重要無形文化財保持者「鍛金」(人間国宝)に認定される。

◆伊藤 赤水(いとう・せきすい)

- 1941年 佐渡郡相川町(現・佐渡市)に生まれる。
- 1972年 日本伝統工芸展で初入選、以後入選多数。
- 1973年 日本陶芸展で初入選、以後入選多数。
- 1977年 五代伊藤赤水を襲名。
- 1980年 伝統工芸新作展で奨励賞受賞、日本伝統工芸展で奨励賞受賞。
- 2003年 重要無形文化財保持者「無名異焼」(人間国宝)に認定。
- 2005年 紫綬褒章受章。
- 2011年 旭日小綬章受章。

◆亀倉 蒲舟(かめくら・ほしゅう)

- 1907年 吉田町(現・燕市)に生まれる。
- 1922年 上京して母方の叔父・小川英鳳から彫金の指導を受ける。
- 1936年 帝展初入選、40年越後工芸美術展の創立に参加。
- 1944年 新潟に疎開してそのまま留まり、戦後は新潟の美術工芸の振興にも尽力。
- 1978年 紺綬褒章受賞。日展審査員となり、新工芸家連盟、新潟工芸会の結成に参加。
- 1991年 日本工芸会に転じる。
- 1997年 逝去。

◆原 益夫(はら・ますお)

- 1934年 新潟県柏崎市の鑄金家、原定衛の長男として生まれる。
- 1952年 日本工芸会理事の北原三佳に師事。
- 1957年 第13回日展初入選。
- 1962年 社団法人現代工芸美術家協会創立会員となる。
- 1978年 新潟県無形文化財に指定される。
- 1998年 日本現代工芸美術展にて内閣総理大臣賞受賞。
- 2000年 文化庁より地域文化功労賞受賞。
- 2002年 第34回日展にて文部科学大臣賞受賞。
- 2005年 日本芸術院賞受賞。